大池公園さくら再生ワークショップニュース No.1

第１回ワークショップ　2020/11/28（土）AM9:30～12:00
『大池公園のさくらを診（み）て、学び、考える』　参加者 18 名

□大池公園（東海市中央町三丁目、面積約 24.8ha）は 1973 年（昭和 48 年）に緩衝緑地として開園。さくらの名所として毎年春にはソメイヨシノが咲き誇り、最近ではライトアップも行われ花見の名所となっていますが、開園後約 50 年が経過し、ソメイヨシノの老木化が目立ってきました。
□『大池公園さくら再生ワークショップ（50 年後に引き継ぐ大池公園のさくら）』では、このソメイヨシノをこの先も楽しめるように維持し次世代に引き継いでいくとともに、大池公園にさくらの名所としての魅力を付加し、再生させることを目指しています。
□現在、皆でソメイヨシノの手入れや再生の計画づくりを行っていくワークショップが進行中です。今年度あと２回、２０２１年１月 30 日<土>と３月 27 日<土>開催予定ですので、是非ご参加下さい。

現況調査･アンケート結果説明

樹木医とさくらを診て歩く

さくらを守る技術を学ぶ（剪定）

さくらを守る技術を学ぶ（施肥）

野球場西側園路沿い花壇

令和２年度ワークショップ全体スケジュール

第１回ワークショップ【11 月 28 日（土）】　済

『大池公園のさくらを診(み)て、学び、考える』
・さくら現況調査及びアンケート結果の説明
・樹木医とさくらを診みて歩く（生育状況、環境）
・さくらを守る技術を学ぶ（診断と手入れ<施肥･剪定>）
・参加者の意見交換～大池公園のさくらの将来像について考える

第２回ワークショップ【2021 年１月 30 日（土）】

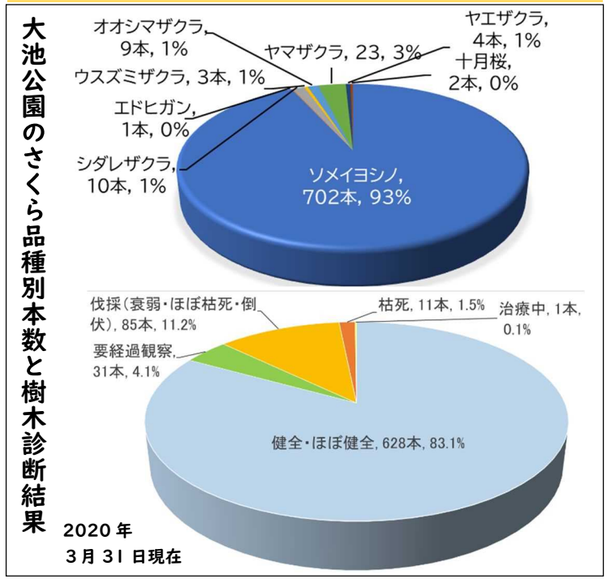
『大池公園のさくら再生計画を考えよう』（予定）
・公園を知ろう（園内現況･課題調べ）
・参加者の意見交換～大池公園のさくらの将来像を整理する～
・参加者による再生計画づくりの意見交換とアイデア･計画発表

第３回ワークショップ【2021 年３月 27 日（土）】

『大池公園のさくらの開花状況を確認しよう』（予定）
・樹木医とさくらの開花を診(み)て歩く
・さくらを守る技術を学ぶ（診断と手入れ２回目）
・令和２年度ワークショップまとめと令和３年度の取組の確認

ワークショップとは･･･
参加された住民の皆さんの意見交換により大池公園の手入れや再生計画を決めていく会合です。作業や自由な話合いをして頂きながらアイデアをまとめていき、市は結果を計画に反映し実施していきます。

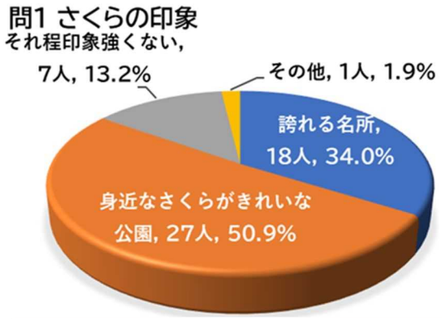
天候に恵まれた第１回ワークショップでは、参加者の皆さんはまず公園管理事務所でさくらの現況調査と市民アンケート結果について説明を受け、意見交換を行いました。
続いて、樹木医さんの説明を聞きながら、園内の西北区域のさくらを診て歩き、さくらを守る技術を学び、手入れとして施肥を実際に行いました。
その後、管理事務所に戻り、さくらの将来についての意見交換を活発に行い、たくさんのアイデアを出すことができました。
ご参加の皆さんお疲れ様でした。
参加者：応募市民、樹木医、事務局、東海市

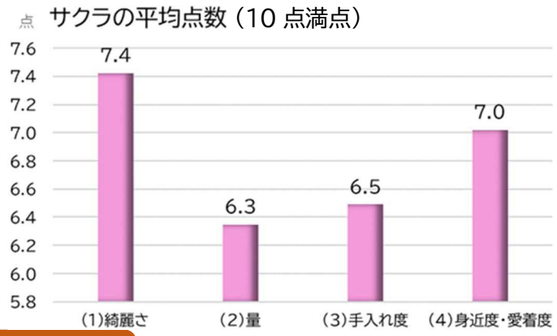


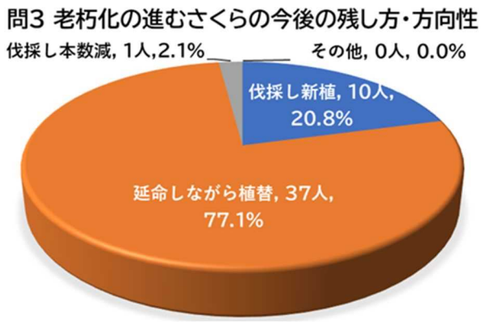
ワークショップ問合先
東海市都市建設部花と緑の推進課
〒476-8601 東海市中央町一丁目１番地
☎：052-603-2211
Email：hanamidori@city.tokai.lg.jp

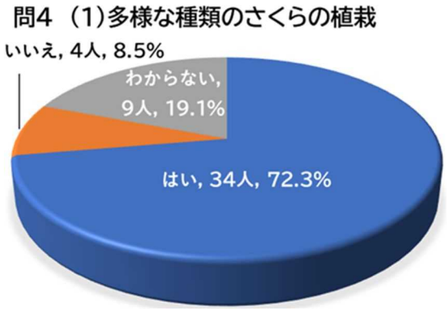
大池公園の現況とさくらの見どころマップ（案）

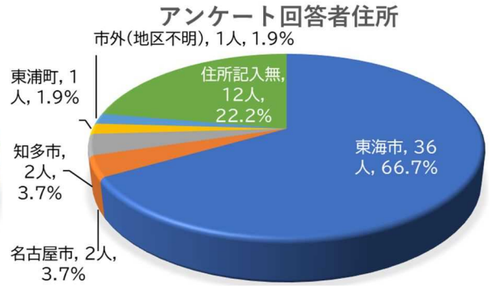
大池公園“さくら再生”市民アンケート（令和２年８～11月実施、回答者 54 人）結果の一部











第１回ワークショップでの主な意見

① 大池公園のさくらの現況調査・“さくら再生”市民アンケート結果について

大池公園は平地公園と共に身近で愛着のあるさくらのきれいな公園である。
さくらだけではなく他の種類の樹木の植栽（地元に根付いた固有種や緩衝緑地植栽等）整備も必要である。
他の品種のさくら（オオシマザクラ等）も含めてさくらの再生を行っていきたい。
さくらの再生を公園内のどの場所から手掛けるか、また、老木化したさくらを植え替えるか延命するかを決めていく必要がある。
各場所に合わせたさくらの見え方（大きな木、面的）を工夫したほうが良い。

参加者の意見交換（さくらの現況）

② 大池公園のさくらの将来像について

参加者の意見交換（さくらの将来像）

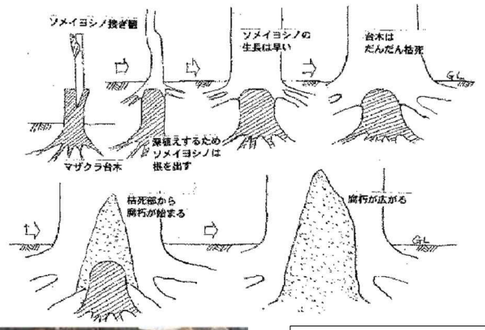
さくらの再整備（新植・植替・延命等）エリアを区切り、５年(10 年)毎の再整備計画を作成し、計画に沿ってエリア毎に部分的に再整備を進めていく。
延命を図るソメイヨシノ、伐採するソメイヨシノ、それぞれの利点・条件根拠を明確にしておくこと。
遊戯広場と芝生広場の境界沿いの５本のソメイヨシノは残して欲しい。
寿命の長い等のそれぞれのさくらの品種の特徴を考慮し、見え方の工夫も検討しつつ、エリア毎の見どころの創出を再整備計画に取り入れる。
ワークショップ開催の周知方法の改善も含めて、活動を積極的にＰＲし市民に見える形で進めていくべき。
桜サポーター（仮称）の組織立ち上げも検討していくとよい。

ソメイヨシノの豆知識(樹木医さんより)

江戸時代に染井村で作出されたソメイヨシノは、全て、元をたどれば同じ１本のソメイヨシノの親木につながり、その親木のクーロン*として接ぎ木で増やされてきました。ソメイヨシノは若いうちは接木する台木の力で成長しますが、自根も出しますので、台木は徐々に枯れていきます。台木とソメイヨシノがつながっていた場所が根株で、樹木にとっては自立するための要となるところです。枯れた台木との接合部が傷口となり、腐朽菌が侵入し「根株芯材腐朽病」になります。従ってこの病気はソメイヨシノにとって致命傷となる持病で、生まれながらに短命が運命付けられています。中心から外側に向かって腐朽が広がると支持力が弱くなり倒木の可能性が高くなります。環境にもよりますが、40～60 年経つと、ソメイヨシノの殆んどが根株内部に腐朽を持った状態となり、補強のため急激に肥大します。他事例ですが、下の断面写真をご覧ください。この段階で、良好な環境を保ち、日常的にきめ細かな管理等を行えば、かなり生きながらえることが可能な場合もありますが、過酷な環境である街路樹では困難なことが多いです。

クローン*：同一の起源をもち、尚かつ均一な遺伝情報を持つ個体の集団

横浜市 中土木事務所 本牧さくら通信第３号より



↑台木の絞め殺し：ツリードクターNo.13 日本樹木医会　有賀一郎より

←根株芯材腐朽したさくらの根株断面